（廿六日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一　第三日曜
定價（壹枚二錢　壹ヶ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　福島縣平町田町拾六　蓮沼龍輔
發行所　磐城新聞社　電話五六四番

磐中生私刑問題に就て辯す

新田目春松

磐中三年生の某生徒が高を逸べむ、五年生に武道の教よりの往復書五通人あり私より見ては除り年生の貴を[illegible]一亘りて殿打せられた為めに保護者より家事法務部用の短銃の許可を[illegible]出願しと云ふ事は誠に困つた問題である、元来磐中の事件には關係する事が多いから同窓生として第三者の立場より冷靜なる觀察を申べたる下級生は種々なる理由の下殿打せられたり曰く學校規定の服裝をなさずして登校する等の理由の下にストライキをなすものなり是等の理由は上級生が模範的人格に非るを學校は遺憾とする理由としては認むべき事實なるも殿打する迄の必要なかるべし（つゞく）

上げ父兄各位の御諒解を願ふ次第である。

磐中生はストライキなる熟語の理解を誤つて居る

ストライキなる語は單に英語の字管を見て打つ殿打の意味に解して他人の頭を打つ事と心得たるが第一の誤りなり、元来ストライキなる語は一人或に對して其ありたる不良を矯正する目的を行ふ非常手段である故に私は中學生間にストライキなるものは斯の如き場合に利用すべきものにて學校として存在を認むべきものなりと思ふ、然るに磐中生間に行はれつゝある現在のストライキは全く斯の如き立派なものに非ざるを遺憾として居る、學生諸士は此の點を考へて貰ひたい故にストライキを利用する場合は般來耳にしたる某女學校の夜襲事件の如き或は常に欠課勝なる者是れは私も時々認めるか自宅よりは學校へ登校する仕度をなして出て來て登校せずに山或は公園等を散歩して時間になつて歸宅し居る等の場合に、其の組全体が集合して不良生に對して忠告をなし矯正した為一時[illegible]する場合には或はストライキの仕方[illegible]らむ斯の如き[illegible]ストライキを利用して頂きたい。

現在のストライキの原因は如何

是れは大[illegible]究の頭ふ次もるり雨三年前の事實なし

講談　血で血を洗ふ

高橋掬太郎創作
布施中八郎揮毫

（197）

やさしい心

『忠太郎殿』

と姫はその後に立つて云つた

『何でござりまする？』

と忠太郎に振り向いた

『妾はちと御身に御相談致したいことがありまする』

と姫は改つて云つた

『御相談とは……改つてどのようなことでござりますか……？』

忠太郎は洗ひかけた手を休めて立つた

『余のことでもありませぬのやうな忠臣かないとも限りませぬ、左内は表面に重太夫の一味と見せかけ、内々は忠義の爲に盡して遂に死んだではありませぬか智勇人に傑れた神部清左工門殿でさへ何事も彼等の意に逆らはぬようにと十八年の間彼等の云ふが儘になつてにられたではありませぬかまして只の家臣の中には心ならずも彼等の勢力に壓倒されて身の安全を計る爲彼等に從ふてゐる者がないとは限りませぬ』

『いかさま』

『またたゞへ一時は心の迷ひから昌康殿や重太夫の一味に加つてゐてもやがては迷ひの覺めるものがないとも限りませぬ、寶部左内が

『それはたやめになつては如何かと考へました』

『わッ！やめよと仰せられたのは復讐の必要がないと考へてござりまするか？』

忠太郎は思はずきつとなつて問ふた

『いゝえ復讐はせねばなりませぬそしてた家に仇なす惡人輩を懲しめねばなりませぬ併し毎夜のように城下へ出て往來の武士を斬つて捨てるは無益の殺生かと思ひまする』

『いや決して無益の殺生ではありませぬそれはみな復讐の一歩でござりまする』

『でも毎夜お斬りになる武士のうちには不忠の者ばかりでもないと思ひまする』

『いや彼等は皆不忠の武士ばかりでありまする大惡人の昌康公に媚びへつらひお妾の奸賊たる早間重太夫の指圖に從ふ不忠の一味計りでござりまする』

『併しその中には寶部左内のやうな忠臣かないとも限りませぬ、左内は表面に重太夫の一味と見せかけ、内々は忠義の爲に盡して遂に死んだではありませぬか智勇人に傑れた神部清左工門殿でさへ何事も彼等の意に逆らはぬようにと十八年の間彼等の云ふが儘になつてにられたではありませぬかまして只の家臣の中には心ならずも彼等の勢力に壓倒されて身の安全を計る爲彼等に從ふてゐる者がないとは限りませぬ』

『いかさま』

『またたゞへ一時は心の迷ひから昌康殿や重太夫の一味に加つてゐてもやがては迷ひの覺めるものがないとも限りませぬ、寶部左内が

『成程』

忠太郎はうなづいた、千世姫が順々に說くのが強く彼の心情を打つのであつた

『妾は今日この血に汚れたものを洗はふとしてふとそれを考へましたそして左までの罪のない者を多くの人の血を流すといふ事が悲しくなつて堪りました、云ひ樣のない淺間しい心が致しました、それで御身にお話して見ようと思つたのでありまするが、御身はどうお考へなされまするか』

姫はじいと忠太郎の顏を見つめた。同じ復讐の念に燃ゆる乍らも流石に女だけに姫の心はやさしかつた。

よい例であります、左内が神谷殿を暗討にしようとした時に神部殿が怒りに任せて斬り捨てたなら左内は遂に不忠の臣となつて終つたでありませう併し神部殿は寛大な心でた赦しになつたので左内は忠義の士として名譽ある死を遂げる事が出來たのでありまする』

三井呉服店の陳列會於新館

◎今秋流行新製品　十一月一日ヨリ
一ショール　一着尺モスリン　商品豊富
一友仙モスリン

◎店内には紅葉と自慢の菊花
京人形とアメリカ人形陳列是非御來觀の程奉希上候

◎たつとめ特價品
△白毒　雨毛　一丈物　九十錢
△珍柄　ネル　一丈物　一圓二十錢
△白キャラコ　足袋　二十錢
△黒　朱子　足袋　三十錢
△鬼　コール　足袋　二十八錢

平町三町目
三井呉服店
電話　三十八番

内科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番

工場改築記念特念價大賣出し

十一月廿四日より
井日まで七日間

◎利益を度外視した奉仕的廉賣！
◎この機を逸せず是非御來店の程を……

特價品の一部
◎最中十個十錢
◎ドーナツ四個十錢
◎ビスケット百匁十六錢
◎衣パン同、二十錢
◎佐久間ドロップス同三十四錢
◎福袋一袋三十錢

マツモトヤ
平町四丁目
電話二一四番

三井呉服店

營業品目
絹糸、紡績糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式

東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
糸界の羅針盤糸紐通報御一報次第直送
電話浪花三五一番
振替東京三四〇番

小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方
磐城新聞社御出で下さい。委細面談

本年ノ流行ショール

澤山荷着
◇格安品豊富ニ店内ヘ陳列シマシタ
◇製産地ヨリ直接安價ニ仕入レマシタカラ御覽下サイ

カクニ石鹼本舗
ロツルヤ
平四電百四十

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

齒科口腔一般
診療時間（午前七時ヨリ午後八時マデ）
但シ急患ハ此限リニアラズ
平町南町成田山前
鈴木齒科醫院
齒科醫　鈴木五郎

蜂ブドー酒

人生の最大な歡喜は一家揃つて健康なることであります　美はしき皮膚の精彩と魅力ある健康と美とを創造する蜂ブドー酒の食前常用は人間生活を　ヨリ光明へ　ヨリ幸福へと導く唯一の捷徑であります……

『蜂印葡萄酒』といふ名稱を　皆樣のお與めにより　且つは時勢の推移に鑑み　今後『蜂ブドー酒』と改めます　どうぞ　引續き御愛飲を願ひます

株式會社　近藤利兵衛商店
東京　大阪

片濱自動車運轉

平、高久、豊間、江名

停留所
一丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一二三屋、江名山口屋

電話…二一七番
…一四二番
御三人以上はお迎ひに參上致します

平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木　片濱自動車商會

日々皆樣の御贔負に酬ゆる爲め左記の通り大々的勉强仕候
是非引續き御愛顧の程御願申上候

記

梅　參圓也（御一人前　藝妓、車賃往復　御酒御料理三品）
松　五圓也（御一人前　藝妓、車賃往復　御料理五品）
櫻　七圓也（二人樣デモ差支アリマセン　藝妓、車賃往復　御料理七品）

期間　二十一月末日マデ

（以上現金ニ限ル）
松ケ岡公園池ノ端
割烹　とさわ
電二一六番

郡外の幕を開じて 磐城蹴球は移る

各自腕を磨いて 平のピンポン熱

学クラブの三隊聯合蹴球大会が銀行チームであらしが吹き荒れはじめ小林警、小學校等も此れに比敵するであろうし三郡少年野球、九曜クラブ鮮炭の両関東北庭球大会、各社の郡下少年庭球大会等秋のシーズンを彩つた石城地方のスポーツ界も去る廿三日の中旬体育大会を最後に全く幕を閉ぢスキーやスケート等の

所謂ウインタースポーツ

に次ぎ地方は漸次ウインタースポーツ、撃剣、歌留多等が盛んになるであろうが室内競技に移りつゝあるピンポンが殊にピンポンは近年非常な勢を以て流行し殊に今年は人口の多い平の方は殆んど毎日の如く平チームを組織し屢々試合を繰り返へされるものと豫想されるので前記各チームを始め隠れた新進チームは盛んな練習を積む

未知数ではあるが七十七銀行チームなども侮蔑

し去った石城地方のスポーツ界も去る廿三日の中旬体育大会を最後に郡部入山チームも相當評判があり今まで當地方は一回のピンポン大会も催されなかつた関係上全く實力は計り知られないのでピンポン

愛好者

平での某有力者は「今年こそはピンポン大会を催して各チームの雌雄を決して見たい」と語つてゐたから或は近く實現するものと豫想されるので前記各チームは盛んな練習を積む

年の瀬を控え乍ら 職を漁る人々

炭礦方面へは賣行よし 平紹介所大多忙

平町職業紹介所では歳末を控へ永年の慣例に倣ひ出来る限り人達を救ふべく盛んに求職者の賣込みに奔走しつゝあるが殆んど言つても求人數は一番多い炭礦方面へ毎日の如く出張し炭礦稼ぎ希望する程の

求職者の賣れ口は頗る良好

既に東京市職業紹介所の支配人は「私の店の賣れ口は例年五萬内外を印刷し各方面の失業者も続々炭礦へ賣り込んでゐるが此れに就いて係員の一人は炭礦稼ぎ希望する程の体格良好　力量のある者で刷する年賀状は全部で二千萬枚を突破する事と思はれる現状から見て炭礦稼ぎ希望者は例年五萬内外を印刷し各方面の失業者の救済に努める筈である」云々と語つてゐた

明けの春を前に 大景氣の活版屋

年賀狀が約廿萬枚 諒闇明けで大多忙

茲四五日で今年も愈々師はると語つたが虚礼廃止の生活改善と年々歳々一部の人にとつて叫ばれるが永い間の傳統とこの

年賀狀も急にはやめるわけにゆかず

すの聲がかゝることゝなつた祭り昭和三年の春は諒闇明けの新年だけに如何に不景氣の折柄とは云へ皆んな一種の活氣を見せるものと今より想像する事難からぬものがある取りわけ例年の

季節師は

すが書き入れ時とされてゐる活版屋では賀狀に名刺に恐ろしい註文の殺到あるべきを見込んで それ〳〵その準備にとりかかつた平町内の某代表的活版屋の支配人は「私の店の賀狀に例年五萬内外を印刷しましたが昨年の新年だけに如何に不景氣の折柄とは云へ皆んな一種の活氣を見せるものと今より想像する事難からぬものがある取りわけ例年の

年賀狀

も急にはやめるわけにゆかず殊に春も同様その交換が行はれるものと觀られてゐるから假りに前記二十萬枚を基本として之に要する經費を概算すると印刷費百枚五十錢計金千圓、私費葉書同上計金千圓、切手三千圓外家庭印刷費

以上の如く平町内活版所関係のみにて優に五千圓を突破する事となる

蓮沼氏結婚披露

郡内有志百餘名を迎へ けふ住吉屋本店

本社副社長蓮沼龍輔氏同夫人リツ子嬢の結婚披露式は昨廿六日午後七時より平の住吉屋本店に於て開催し二十六日午後四時より平町内の有志百餘名の出席者氏名左の如し（順序不同）白井博之　白井一郎　草野順平　麻生川顯　山崎庫太郎　星野庸治　山崎與三郎　木村満治　金成通　古川傳一　武藤精一　小野務平　萩原申八　小野晋平　鈴木辰三郎　鈴木源藏　井上茂作　中野甲藏　小原長英　河西八十治　下野十朗　湊谷定次郎　矢野忍一　安孫子虎雄　比佐榮一　高橋龜松　倉田鑑吉　水野虎三郎　濱崎善三郎　漆野佐市郎　吉田宗雄　大貫經次　前田復三　比佐源藏　佐藤信也　江口忠一　鈴木唯治　樫村勇　安島重三郎　高岡隆一郎　諸橋守次　柏原幸次郎　千葉彦治　伏見彦衛　岡部掬　高沼鋒太郎　猪狩清　須藏德雄　高久忠　市原卯太郎　吉田喜代治　星敏夫　藤田榮助　石坂詮太郎　郡司二郎　山崎壽　中野治忠　和泉隆今　中藤鑑蔵　高橋榮雄　阿部政右衛門　佐々木龍若　平田吉治　長島菊苗　清野喜代　山御忠太郎　遠藤後一郎　戸田兵藏　新妻盛　山崎登　小野邊東次郎　相本信一郎　八代安行　平谷政喜　榎本紀一　樋里久　横山顯　山田整廣　佐藤稔　村上榮　柏木哲　岡田弘盛　川崎文治　大和田與平　鈴木章助　鐵田豊太郎　伊東一　三井常松　谷口仁太郎　丹野寛平　福尾伊太郎　立花雄七　西九猛　西藏惣治　草野欽一郎　柏本清七　伊藤鑑七　宮田三朗　松本德一　坂本茂雄　馬目子之松　中村謙藏　高倉精一　阿部チエ　田村參也　梅浦健吉　渡邊寛一郎　太田文雄　本田武雄　林省吾　長保意比　長保惣一　長保ケイ　長保紀一　木戸啓一郎　大倉藏吉　川上隆樣　横澤德助　蓮沼清四郎　熊倉端介　林彦五郎　長谷川廣吉　高野彌三郎　長山伊三郎　林啓策（以上）

相手は看手 姦通の告訴

機關手が提出

平町八幡小路平機關手木田某（三七）は茨城県多賀郡日立村生れ松田ハナ（三六）及び平町元平刑務所看手某（三六）の両名を相手取り平區裁判所に姦通の告訴を提起したその理由は本年七月二十三日夜勤務中夜食を取るべく自宅に帰つたところ妻と平紀

特に注意すべし

戸締りと火の元

歳暮氣分が溢れて 平署の特別執行

爲三郎（四一）は去る九月廿八日午後七時頃磐城炭礦川口仮場居住群馬縣生れ雜夫福田淺吉（五三）が些細の事から同僚上遠野菊次郎（四五）と口論の果て遂ひに及ぶ五寸餘の七首を振つて菊次郎を刺殺した際急報に依つて駆せ付けた警官に力を添へて淺吉逮捕に盡力したため廿四日付り金封を添へて伊藤本縣知事から表彰された

名物に祟られて 平の火事と損害

總計十三萬圓を灰に 平署消防を督勵

平署では石城名物のからつ風吹やむを之れからが最も危険な火事期節を控へて此程管内消防組聯合を開き各組共に來る十二月一日から明年四月末日迄

毎日必ず一回以上戸別の火防點檢を行ひ火の用心宣傳のポスター及びビラの類を適當に印刷配布する

ことに定め昨廿五日から左記日割で消防組の定期檢閲を執行中であるが本年一月

前年同期の七萬四千圓件數

前年同期の七萬四千圓件數甘二回より約倍額の損害を見せてゐる出火　原因は約三分の二が風呂やかまどの不始末で提灯の置き忘れに子供の弄火等注意すべきもの〻心ない結果からかうした大事をしてかしてゐる、ヂャンと云つたら必ず大なり小なり

舐め盡さねばをさまらぬ火災は消火の設備順練の大切なことは云ふ迄もないが吾人の注意一つ

電燈値下演説

今夜平劇場で

平町電燈株式會社では今廿六日午後六時から平劇場で開催する事に決定した

ナフトール　着尺
着尺モスリン
模様名仙
平
亀田屋
電五七

警戒網に掛つた 交通違反の事故

何れも申し合せた様に 無燈火の自轉車

平警察署では數日前から盛んに引きかかつた者は次の如く各れも揃つて自轉車の無燈火に依る交通違反であるが草野村下神谷村生れ當時平町大工町居住富岡忠（一九）は二十四日夜仲間町街路を無燈火自轉車に堵乘して二圓、飯野村上荒川字島田吉田正義（二九）も同夜午後六時頃新川町街路で同様二圓、小川村生れ當時平町紺屋町居住谷中榮三郎（二〇）も廿三日夜紺屋町街路で同様二圓、神谷村大字鹽中野二郎（二六）は二十一日午後七時頃平警察署前で同様三圓、上好間字南町田小林昇（二二）同夜北目町街路を同様二圓各れも密行中の警官に發見告發され今廿六日即決でお灸を据ゑられた

教習所生見學　本警二週間に亘り聖隣庫の點檢巡査教習所生徒三十名は菊地教官引率のもとに見學の統技をする學になつたため昨廿五日來平磐城炭礦小名浜築港、豊間燈臺等を見學した

農産品評會

大山技師の審査

草野村農會主催の農産物並に俵米品評會は來る十二月七日から三日間同村役場で開催されるが郡農會大山技師、穀檢支所安島技手出張審査する筈である

機關車點檢　來月二日に亘り平機關庫では運轉事故防止のため來る十二月一日から

内科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。
磐城病院
平町田町本通り
入院隔時（電話一一四番）

新刊著書
新家芳美氏序
人生旅路我は行く
小泉貢著
定價一册一圓、特價七十錢
著書は本郡鹿島村出身の青年作家として異數の力作を御批評あれ
磐城新聞代理部
電話五六四番

深キ經驗ト
正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト
優秀ナル技巧ニ依リ
多産廉賣
益々聲價漲ル
萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗証明
鐵道省
福島縣廳
栃木縣廳
青森縣廳
指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

強烈なる滋養と美味を以て例年御期待下さる
カキ貝御料理
相始め申候
カキフライ　一人前　三十錢
カキなべ同　五十錢　品
カキよせなべ同　五十錢　々
スガキ同　廿五錢
十一月一日より
洋式宴會仕出し
一の井
電話一六七番

◎徒弟入用　徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候
金牌一等賞等數回受領
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士　敬白
大谷時計病院
電話一九番

鐵筋コンクリート
鐵骨組立　主本、建築、請負業
和洋建築　合資會社
文化式建築
設計監督　丸三森川組
社長　大森鎮平
東京日本橋南茅場町二〇
電話茅場町66四五二番

日東のラジオ
最新高級の
ラジオ製造販賣
並に部分品提供
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町
日東商會
電話六五〇番